

てん げんこう よろこ
天の元后 喜びたまえ アレルヤ

ふきょうしゅうどうじょかい
マリア布教修道女会シスタールイザ

きょうかい なが れきし のなかに がつ がつ はは せい たいせつ でんとう
教会の長い歴史のなかに5月と10月はイエスの母、聖マリアを大切にするという伝統があります。
しんじや もはん しゆ したが しんこう きぼう あい みち あゆ はは あお
信者たちは、その模範にならって、主イエスに従い、信仰、希望、愛の道を歩むように母マリアを仰ぎ、その
もと
とりなしを求めるのです。

だい こうかいぎ こうぶんしよ なか きょうかいけんしゅう ぶんしよ だいはちしやう だい
第2 バチカン公会議の公文書の中に、Lumen Gentium、「教会憲章」という文書があります。第八章のお題は
きょうかい しんぴ なか かみ はは せい
「キリストと教会の神秘の中の神の母、聖なるおとめマリアについて」となっています。その中からいくつかの言葉を
いんよう むずか おも ことば い み ふか しんこう ゆたか
引用します。難しいと思われる言葉もありますが、意味が深く、わたしたちの信仰を豊かにするものなのです。
ぜんじんるい すく たい かみ けいかく なか せいぼ ち い みつせつ
たとえば、全人類の救いに対する神の計画の中の聖母マリアの地位と、マリアとイエスとの密接なきずなど、マリア
わたし はは こんきよ おし ふく
が私たちの母である根拠などの教えが含まれています。

しんぴ
キリストの神秘におけるマリア

じひ ち え と かみ よ のぞ とき み
「いと慈悲ふかく、知恵に富む神は、世のあがないをなし遂げようと望み、『時が満ちるとそのおん子を女から…
う 生まれた者としてお遣わしになった。それは、…わたしたちを神の子となさるためであった。』(52番より)

せい きょうかい
聖なるおとめマリアと教会

てんし つ き こころ からだ かみ ことば う よ かみ
「天使のお告げを聞き、心と体をもって神の言葉を受け、世に「いのち」をもたらしたおとめマリアは、神である
ぬし しん はは みと じぶん こ こうとく すうこう
あがないまである真の母として認められ、たたえられている。マリアは、自分の子の功德によって崇高なしかたで
しんみつ と こ むす かみ こ はは さいこう やくわり そんげん う
あがなわれ、親密で解くことできないきずなによって子に結ばれ、神の子の母になる最高の役割と尊厳を受けられ
た。したがって、マリアは父の最愛の娘であり、聖霊の住む聖所であって、この優れた恵みの賜物によって、天上、
ちじょう ほか ひ ぞうぶつ まさ ばん
地上のすべての他の被造物よりはるかに優っている」。(53番より)

せいぼ たい おお さんか なか よつ もつと うつく すうひゃくねん きょうかい たいせつ
聖母マリアに対する多くの讃歌の中に、四つは最も美しいものとして、数百年にわたって教会が大切に
なか ふつかつせつ と な さんか しょうかい てんれいせいかしゅう ばん ばん あ
きました。その中の復活節に唱える讃歌を紹介します。「典礼聖歌集」375番と376番に当たります。

てん げんこう よろこ
天の元后 喜びたまえ アレルヤ

てん げんこう よろこ
天の元后 喜びたまえ アレルヤ

やど
あなたに宿られたかたは アレルヤ

おお ふつかつ
仰せのように 復活された アレルヤ

いの
われらのために祈りたまえ アレルヤ。